◉韓国政府は22名の留学生らを全員即時釈放せよ！
◉日本政府は22名の留学生らの人権回復に努力せよ！

11.22通信

1978年 12月16日
第14号
1部100円＋カンパ
年6回発行
振替口座
大阪4649・摂津富田教会

発行所
「11・22在日韓国人留学生・青年不当逮捕者を救援する会」
大阪府高槻市富田町3－7－25
摂津富田教会（〒569）
電話 0726－96－2562

三周年 救援を！新たな地平へ！

去る十一月二十二日、「11・22事件」は事件デッチ上げ以来三周年を迎えた。三年余りのわれわれの懸命の救援行動にもかかわらずいまだ一人の友人をもこの日本に連れ戻すことができていない。慙愧（ざんき）に堪えない。

この三周年の前後、各地で「11・22事件」糾弾の隊伍が連続して鳴動した。わが子を母国の獄に委ねた家族の痛恨の心情を想い、われわれはわが身に鞭打ち何としてもこの救援運動に勝利を収めなければならない。

今こそ新たな地平へ！人権と人道を守る救援の新たな地平へ四年目の闘いを共に組もう！

11・22全関西集会

「11・22事件」三周年に向けての取り組みが、各地で連続して展開され、今更ながら救援運動の広範さを示した。

三周年行動に先鞭を付けたのは、11・22救援大阪連絡会の十月十六日の集会（於部落解放センター）だ。約百五十名が結集し、この十一―十二月行動を必ずかちとることを満場一致で確認した。

また、「家族、僑胞の会」が主催する「スライド・コンサート集会」は、各地の支援組織や個別救援会と連携して成功を収め、11・22事件三周年糾弾全関西集会の前段の取り組みとして強力な弾みをつけた。

まず、十月二十六日には東大阪で、柳成三氏や康宗憲氏の救援会が協賛に回った生野集会は十一月二日に、各々百五十、三百人を集めた。

各大学では、十一月十四日―龍谷大、十五日―立命館大、十七日―同志社、それに十八日は京都大と各々約五十から二百人の学生に強力に訴えた。

また、それ以外の11・22をめぐる各大学の取り組みは、大阪大―十一月二日、京都府立医大―二日、大阪芸大―三日、広島大―十三日、島根大―十五日、大阪市大―十六日、京都産大―十八日、関西大―二十日、等々。

更に京都では、二十三回目の定例デモ（第三日曜日）を十九日に行い約五十人が結集した。

特赦に踏み切るか
救援会・家族静観……

十二月二十七日の朴大統領四選就任式をめぐって、韓国内では政治犯特赦の動きが急速に高まっている。

これは、韓国国会で野党の質問に答える形で政府筋が明らかにしたもので、去る十一月四日には、崔圭夏首相が「大統領に（特赦を）建議したい」と述べたのが根拠となっている。

今回の特赦は、一般事犯を中心に例年になくかなり大規模なものになる見込み。また、緊急措置令関係者も、従来のように「反省文」を認めたいわゆる「改悛の情」著しい者のみ考慮されるとのことである。

しかし、在日韓国人政治犯のように、いわゆる国事犯（反共法、国家保安法違反容疑）にまで赦免対象者が含まれる可能性は少ないのではと一般的にみられている。

ただ、刑期の残余日数が比較的少ない拘束者は、特赦とは別枠で仮釈放の必要条件を満たしていることから、今回のこの機に若干名が釈放されるかも知れない。

なお、日本国内の救援関係者、家族筋では、特赦への一抹の可能性を完全に捨てていないが、過去何度も裏切られていることから余り期待していない模様。

▽11・22事件、三周年糾弾△
大阪1200人 東京500人

【京都】

去る十一月二十日、「11・22事件糾弾三周年集会」が左京区の洛陽教会に約二百人が集まり開かれた。

京都では、最近の沈滞ムードを吹き飛ばすため、主に学生グループが前面に立ち奮闘した結果、昨年の倍近く参加者が増え、三周年行動への着実な拡がりを裏付けた。

集会では内村代表の基調報告や先頃渡韓した「姜鐘健氏を救う会」の渡韓報告がなされた。

最後に、後援の「11月学生実行委」が在日韓国人「政治犯」救援の闘いを学生が率先して担っていくと力強く連帯挨拶を行った。

【東京】

二十一日には東京地区の抗議集会が千代田区の全電通ホールで開かれ約五百人の労働者、市民、学生が結集した。

東京では、翌二十二日の対政府行動を貫徹することが各報告者より訴えられた。

また、「家族・僑胞の会」が推進する国連への、在日韓国人政治犯の人権救済署名を今後の運動の中心に据えて取り組むことが確認された。

【大阪】

二十二日、東区の大阪府農林会館で「11・22事件糾弾三周年全関西集会」が開催された。

会場付近では、勝共連合のイヤガラセが続くという緊迫する中、救援会員・労働者・市民・学生らが続々と詰めかけその数は千二百名に達した。

座りきれない参加者が、七重八重に立ちつくしている。

まず、僑胞の会製作のスライド上映がありその後基調報告に移った。

「11・22救援会」の桑原事務局長は「11・22事件」ねつ造の歴史的経過とその狙いを簡潔に語った。そして、三年目の本年の救援運動の総括を行い、四年目の闘いとし「早期釈放、死刑執行阻止、再入国の実現をはかること」を日本人の責任として追求しなければならないと強調した。

年末カンパを

本年は例年になく冬の訪れが早いようです。四度（よたび）酷烈な冬を暗い牢獄で過す私たちの仲間の胸中はいかばかりでしょうか。

「11・22救援会」は、これら留学生らの痛苦を少しでも和げるため、今冬も差し入れを目的とした渡韓を計画していましたが、先頃、高所山岳用の下着や手袋、等の衣服を中心に差し入れ行を決定しました。

例えば、金五子さん―彼女は靴下を五枚重ねてもなお足が冷たいとのことです。

私たちが、鋭意精選した品物は、彼女らを守ってくれることでしょう。

本通信読者の皆さまに、切なるカンパを訴えるものです。

不況のさ中ではありますが、ぜひ年末カンパを！

（送り先、郵便振替、大阪4649 摂津富田教会）

写真は、毛の下着上下、ノルウエー製の靴下。手袋の素材はアンゴラ。

ソウル通信
康宗憲

康宗憲氏

お元気ですか。秋もだんだん深まって行きます。弟達も皆元気ですか？

私は何の変わりもなく健康な毎日を送っております。九月十六日二十七回目の誕生日をおかげで迎えました。天主教会からも金叔母さん達の祝賀があり、監獄で迎える誕生日にしてはよすぎた一日でした。ここで、すでに三回の誕生日を送りましたが、今度の誕生日が一番楽しかったです。日本からもその間、埼玉県所沢市居住の福井晋氏から誕生カードを、九月七日付で山本美千代さんからの手紙を受け取りました。

この頃は読書の季節、私も読書に終日を送っております。現在私は二十代の後半期、人生の最も重要な青春の終りを刑務所で送っているわけですが、その間の修養生活を振り返ってみる時、私にはまたとない機会だと考えております。この生活を通じて私は一日一日鍛錬され、内面が充実されております。この経験を生かして生きがいのある仕事をする時が必ず来るであろうと信じて疑いません。私に健康な肉体と健全な精神が残っている限りなんの不可能がありましょうか。

では今日はこれ位にします。だんだん冷えて行きます。くれぐれも健康に留意され、返信を待っております。親友達に私の挨拶をお伝えください。

昨日は彼女の誕生日でした。消息が途絶えている現在、どこでどうしているのかひたすら健康と幸福を願うのみです。

七八年九月二十五日
宗憲

〜11月20、22日〜
対領事館行動！
館員らあわてる

十一月十二月行動の一環として、対在日韓国領事館行動が各地で展開された。当初九カ所全ての大使館・領事館に抗議行動を起す予定であったが、連絡が遅れたせいもあり、実現したのは仙台、横浜、名古屋、大阪、神戸、下関の六地区にとどまった。

各領事館とも、異常なほどの日韓の警備体制がしかれ、韓国当局のこの過敏な反応は、「11・22事件」デッチ上げの後ろめたさを示しているといえよう。

各領事館前で抗議文や要請文が、この妨害をはねのけ読まれるなどほぼ成功した。

しかし、神戸、下関では民団員が終始張りつき参加者への露骨な監視と敵対を露わにした。

また、大阪では、テレビ局の取材にろうばいし、直接領事が局を訪れ、放映中止を迫ったが断られた顛末を、救援会では確認している。

総じて、今回の領事館行動は最少限の人員でかなりの波及的効果を示すことから、今後もっと不断に考慮されてよい行動といえよう。

韓国より書簡
▼大連会へ▲

去る五月二十七日、徐俊植氏が不当にも再収監されたことはまだ記憶に新しいが、その抗議文を郵送した「11・22救援大阪連絡会」に、送付先きの韓国法務部から真接返書が舞い込み、関係者に注目されている。

返書は、英文で韓国法務部検事局朴熙太（音訳）の署名がある。

内容は、「徐兄弟に関心を示してくれるのは有難いが、彼らは国家転覆を謀るスパイだ」と、従来から既に論駁されていることをむし返しているに過ぎない。「それよりも、裁判で物的証拠が皆無なことや、〝拷門の結果、虚偽の自白を強いられた〟との徐兄弟の発言には、一切頬かぶりしているのは承服できない」と「大阪連絡会」の会員らは憤慨している。

断鎖

韓国人文鮮明を教祖に戴く原理教会・勝共連合が世界各地で盛んに物議を醸している。この新興宗教、かって韓国でも教祖の不倫事件や集団結婚式などの奇癖が祟り、殆ど相手にされなかったという。しかし最近は、その徹底した反共ぶりと利権をめぐる生臭さが朴政権にいたく重用され、この日本でも自民党右派グループや民団と黒いドッキングを果たし、ここ数年各地で傍若無人の〝活躍〟である★ターミナルで「歳末助け合い運動」を詐称して募金に精出すのはこのグループである。ベトナム難民救済、あるいは福祉施設から来たと騙り一軒一軒から何がしかの金を強請るのは彼らの常套手段だ。先年勝共連合の幹部が香港の地下銀行を通じてソウルに数十億円を送金したかどで司直に摘発されている★勝共連合の行動は金集めだけにとどまらない。反共の尖兵を自認する彼らは各大学に跳梁し、韓国の現体制に批判的な学生には異常なまでの敵愾心を示す。早稲田大の「崔然淑救」が、度重なる妨害に業を煮やし、一般学生ら延べ数千人と勝共連合の糾弾闘争を始めたのは、昨年のことであった。この団交の席上、勝共側は「在日韓国人留学生らの情報がKCIAに渡ることもありうる」と臆面もなく述べた★この時火を噴いた反勝共・反原理の闘いは、いまや各地で展開され現在では大阪の関西大学が注目の的である。ここでは勝共連合が「11・22救援運動」を支援するある在日朝鮮人学生を名指して、〝スパイ〟とビラなどで悪辣なデマ宣伝をしていることに憤激の声が高まっている★「彼らは宗教人を自称するのだから説得を」との声もある。これにはある学生の談が参考になる。キャンパスで彼らと対時している時、相手が大声で怒鳴った。「貴様の顔を覚えたぞ。地獄の底まで追いかけて殺してやるゾー」★彼らへの対処法はただ一つ。粉砕あるのみ。広範な闘争体制を早急に組織しなければならない。

12・14 対政府交渉日決定！

―関西から大挙上京―

十一月―十二月行動の最後のしめくくりの舞台である対日本政府行動の日程が十二月十四日と決定した。

「11・22救援会」が代表呼びかけ人となり、在関西の二十の個別救援会が結集した「十一月―十二月行動関西実行委員会」が去る十一月初旬に結成された。

今回の対政府行動はこの「関西実行委」が主要に準備作業を煮詰めてきたが、このほど要請行動の具体的細目が明らかとなった。

交渉先きは、内閣（官房庁）、外務省、法務省の三カ所。

内閣には六十名を超える在日韓国人「政治犯」の人権救済や六氏への死刑執行阻止への歯止め等の基本的課題を突きつけていく。

外務省には、「政治犯」の調査、面会や差し入れ物品の便宜、獄中処遇改善への取り組み、等の現在救援会が直面している緊要な課題が具体的に提示される。

また、法務省には、留学生らが釈放後、日本への再入国の無条件認容や外国人登録原票の速やかな原状回復が、昨年に引き続き要請される。

十二月十四日当日には、個別救援会員はもとより、関西の支援団体（死刑執行阻止共闘会議、反安保府民共闘会議、日韓連）が、北区のPLP会館で前夜の十三日に結団式を済ませ大挙して上京する予定。そのため各地では、官僚との対応方策も含めて学習会が連続して開かれている。

またこの十二月十四日の要請行動は十一月二十二日の「僑胞の会」「全国会議」主動の対政府行動の成果を踏まえて連携の一環として更に突っ込んだ論議が展開され、三者共催の結団力を政府サイドに示さなければならない。

なお、議員の支援体制としては、社会党の上田卓三（大阪）、西宮弘（宮城）の両議員が中心になり、更に数名が加わる予定。

■園田外相発言■ 〃内政干渉と思わぬ〃 11月22日 外務省

十一・十二月の二度にわたる対政府交渉の第一波が、「全国会議」「僑胞の会」「関西実」の三者共催で去る十一月二十二日、外務、法務の二省で行なわれた。

外務省には、安宅常彦（社会）代議士の領導で会員家族ら七名が出席。外務省は園田外相、三宅アジア局次長ら三氏が応答した。

まず救援会サイドから、死刑停止のため韓国政府へ正式文書で申し入れよ、等の要望事項を箇条書きにした文書を手渡し、その返事を次回の十二月十四日まで回答するよう求めた。

要望事項の主旨説明の最中、園田外相は「（政治犯問題は）内政干渉とは思っていない。閣僚会議でも話している」と従来より前向きの発言をし注目された。

また、昨年の懸案事項であった徐勝氏への〃ヒルドイド〃（注）を、外相は手ずから受けとり「実務的に処理したい」と答えた。

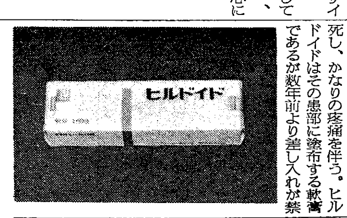
法務省では、伊藤官房審議官らに救援会員らが、先の吉田発言（注）の本意をただした。

伊藤審議官は、吉田発言は法務省の基本見解ではないと断った上で「韓国の裁判で有罪なら、有罪として扱わざるをえない」と到底容認できない発言を行なった。

なお、内閣（官房庁）との交渉は拒否され実現しなかった。

〈注・ヒルドイド〉

徐勝氏は取調べ時の拷問により全身の四十五%の火傷を負った。それゆえ火傷痕の血行が阻害され毎年冬期には患部に凍傷を誘発しやすい。放置すれば皮膚組織が壊死し、かなりの疼痛を伴う。ヒルドイドはその患部に塗布する軟膏であるが数年前より差し入れが禁止され、先年よりこれを彼に届けるのが対政府交渉時の急務となっている。なお、従来ヒルドイドは血行促進剤と注釈されていたが、正確には凝血阻止剤というべきである。



〈注・吉田発言〉

金達男氏の再入国を踏まえて、法務省の吉田入管局長が去る六月六日、交渉の救援会員に「……みんな韓国でつかまってもやむを得ないことをしているのではないかですね…みんないろいろやっているようですね…みなさんの言っていることと違う」と皮肉まじりの暴言を行った。

徐　勝　氏

渡韓レポート 姜鍾健を追い求め！

『それはほとんど五年ぶりの〃再会〃だった。あまりに短い時間ではあったけれど、その一瞬は大きな衝撃だった。戸口に立っていた姜氏は、私の知っている彼ではなかった。丸刈りで顔面は蒼白。しかし、その意志を表わすかのように唇はしっかりと結ばれ、目を大きく見開いて、私たちを呑み込もうとでもするようだった』。昨年七月、面会、差し入れのために渡韓したMさんの報告はつづく。『姜氏と私とは高校時代の同級生。サッカーのユニホームに汗で濡れた髪がよく似合っていたっけ。先生の質問に答えられなくて頭をボソボソかいていた楽しい人だった。そんな残像をひっさげていった私には、とうてい認めることのできない姿だった。重い時間の蓄積が彼を変えた』……。

裁判中から一貫して検事や判事に噛みついていた姜氏を当局は容易に許容するとは思わなかったが、下獄後断片的に入ってくる彼の拘置状況は悪絶をきわめていた。

本年初頭、突然大田から全州矯導所に移監されたのも彼の堅固な志操に刑務官がサジを投げたからだと伝えられている。

十一月十五日、Mさんのその言葉を反すうするようにして、私はやや緊張気味にソウル金甫空港に降り立った。

全州に向う前にこの日の午後ソウル市内で奇異な光景に遭遇した。地下道を歩いている時、サイレンがけたたましく鳴り響いた。その瞬間、喧噪の街は死の街と化した。人は皆押し黙り直立不動の姿勢をとり、車は停止し、物売りの声すら聞こえない。無気味な沈黙の時間が流れた。一体全体、私は何が何だかわからなかったが、その疑問はすぐ解けた。頭上から轟音をあげてキャタピラのきしむ音がした。戦車が何十台となく行進をしているのだった。

常にこういう空恐ろしい緊張状態を醸成し市民を威圧しなければ政権維持が困難なのだろうか。

全州矯導所

翌十六日、私は焦る心を抑えて全州矯導所の門を叩いた。日本語のわかる年輩の係官が出てきた。彼は言下に「姜鍾健は非転向だから会わせられない」と告げた。また「彼の兄弟も先月来たが、本人に転向するよう勧めるとの条件で会わせた位だ」と彼の硬骨ぶりにはかなり手をやいているという感じであった。少し押し問答をしたが、結果は変わらなかった。それで彼の状況を少しでも聞き出そうとしたが「（独房で）元気で本を読んでいる」とだけ。

やむなく、りんごなどの果物類を中心に抱えきれない程の差し入れをした。

このまま帰るのも勿体ないので、「教務課長に会わせて欲しい」と要求すると、いやにあっさり出てきた。が、課長は一見して不愉快そうな表情を隠そうとせず「親族以外の面会は駄目だ。お前は姜の何なのだ」と逆に詰問してきた。更に「共産主義をどう思うか」と。のせられてはいけないと思い「よくわからない」と答えると、「学生のくせにそんなことも答えられないのか」と真顔で怒り出し、あらあらしく出ていった。

姜鍾健氏との面会が実現せず彼への支援が充二分にできたか、いささか心もとない今回の渡韓であったが、獄中の姜氏の状況を考えると、われわれはこの障壁を突き崩す努力を不断に怠ってはならない。日本での救援行動も勿論だが、その一助となるなら私は何度でもあの小高い丘に立つ全州矯導所をたずねて行くつもりだ。

『姜鍾健氏を救う会』

「非転向は出さない」 李東石氏の待遇悪化

大田矯導所の李東石氏の消息を伝える。

十月十六日、家族と共に渡韓した「李東石氏を救う会」の会員は、三分間の一般面会に立会うことができた。面会で東石氏は、「頻繁に転房する」「タオルに水を浸して身体をふいている」等、風呂にも入れられていない状況を示唆するなど、待遇が「非転向」ゆえに厳しさを増してきたことを暗ににおわした。また、矯導官は、李東石氏の『世の中が変るからこのままでよい』を引いて「期限がきても転向しない限り出さない」と居直る始末であった、という。

視力が低下 趙勲得―光州

光州矯導所に収監されている趙得勲氏（26）＝懲役七年＝の近況が、先頃「趙得勲さんを救援する大阪の会」に届いた。

趙氏は現在雑居房で、カッターシャツをミシンで縫製する作業に従事している。

健康は、食事と長時間の作業のせいか、視力が著しく低下しているそうだ。

家族との面会時に、眼鏡のツルの代用に紐で結んで出てきたが、新品の差し入れは拒否された。

また、他の拘束者同様、書簡事情は余りよくなく、「岡山の会」が出した八十数通の葉書きも本人の手許にやっと三～四通届いたのみ。また、家族への手紙も時々間引きされることが多い。

趙氏は、梁南国氏（28）＝懲役十年＝と、出身が同じ大阪ということもあって仲が好いそうだ。

崔然淑に面会

去る十月中旬、「崔然淑さんを救う友人の会」の会員が大田矯導所で崔さんと30分の面会に成功した。

彼女は元気そうで、日本の様子などを中心に会員としばしの懇談を楽しんだ。

訂　正

「11・22通信」十三号三面下段の「ドキュメント」中、上から二段目、左から二行目の『薄幸のこの母に敬虔な祈りを捧げた』は『……敬虔な祈りを捧げた』の誤植でした。謹しんで訂正申し上げます。

留学生に年賀状やカードを あなたも直接救援を

厳寒の獄中で懸命に耐える留学生らに支援のクリスマスカードや年賀状を出そう！

この時期は、一年を通じて拘束者らが受け取る郵便物の諸々の条件が、最も緩和される。

それゆえ、通常はなかなか入りにくい日本人からのカードが、比較的多く拘束者らの手に届くわけだ。「11・22救援会」は、本通信読者の全てが、韓国の友人に平均四～五枚のカードを送ってくれるのを望んでいる。

この一枚のカードを彼らがどんなに喜ぶことか！

何も面倒なことはない。さあ！いますぐあなたもポストへ。

―〇―

◆クリスマスカード及び年賀状の出し方の注意事項

・各宛名の横に収監番号を書き、様の代りに貴下とする。

・表書きにAIRMAILと朱書する。

・内容は、挨拶や健康状態を中心に、韓国語、英語、日本語いずれでもそう差しつかえない。

◇　◇

【住所】

■大韓民国SEOUL特別市西大門区、SEOUL拘置所。

白玉光【収監番号、五九八六】、康宗憲【六七七】、李哲【九六六】、**李秀熙**【一一三五】。

■大韓民国慶尚北道達城郡花園面、大邱矯導所。

金五子【二六六六】

■大韓民国忠清南道大田市中村洞、大田矯導所

金元重【三九一四】、崔然淑【三八九六】、李元二【三九六二】、金東輝【四一一六】、蔣明玉【三八七六】。

■大韓民国全羅北道全州市平和洞、全州矯導所

金鍾太【四二四】、**姜鍾健**【一〇五三】。

■大韓民国全羅南道光州市光州矯導所。

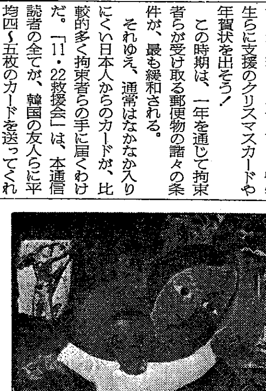
金哲顕【三二二九】、梁南国【二九八四】、趙得勲【三〇八三】、**柳英数**、**金勝孝**、**金整司**、柳成三、（以上四氏は収監番号は不明）。

（注、ゴチックの留学生は、「11・22救援会」の判断で特に救援が必要と思われる人々）。

◇　◇

最後に、発信人の住所、氏名を正確に記すこと。留学生らから返事の可能性や間接的に落掌したことを知らせられる。住所、氏名を記したことで生じる不利益は、過去例がなく、まず大丈夫であろう。

なお、カードは事務局で一枚一〇〇円で頒けていますが、市販のものや通常の年賀葉書きで十分である。切手の額は、葉書きは七〇円。封筒入りのカードは郵便局で問い合わせを。



韓国アムネスティーのカード。

救援会短信

◎本年最後の通信をお届けします。今年は昨年にも増して、いろいろなことがありました。来年も宜しくご支援のほどお願い申し上げます。

◎本通信の読者を募ります。一年の郵送回数は十回～十五回です。代金は送料込みで二〇〇〇円です。皆さまのご友人、知人をご紹介下されば仕合わせです。

◎一部の読者の方に、韓国の獄中へカードを出して貰うようお願いしました。もし、カードをご入用の方は事務局まで至急お知らせ下さい。

◎全国の個別救援会、支援団体の皆さんに！資料の散逸を防ぐため事務局まで、チラシの類に至るまでご送付下さい。

◎不本意（？）ながらカンパの訴えを行います。一面の記事にあるように、この品物の購入にはかなりの金額が必要です。年の瀬も押し詰まり、何かと物入りの時期ですが、彼らへの支援も忘れてはなりません。宜しくお願い申し上げる次第です。

◎一面の特赦が、具体化した場合に備えて、本通信は、正月返上で緊急速応体勢を取るつもりです。家族の方々ともども何とかいい吉報を期待したいものですが…。

◎来る七九年が獄の留学生らにとって最良の年でありますように。